

# 阪神カウンセリング・ラボ ニュースレター

2016 4月号



## 良好な夫婦関係を維持するために（1）

夫婦喧嘩は、案外たわいもないことの連続で起こっています。しかし、そんなに単純とは言えない事情があります。たわいもない言いながら、離婚にまで発展してしまうことがあるからです。どうしてそんなことになるのでしょうか。

女は話すことで共感を求めたいのに対して、男は、現状を分析してどうしたらよいかを考えようとします。だから、女が愚痴を言ったり苦痛を話したりすると、男は、延々としゃべる女の話に疲れ苛立ちを感じたり嫌な顔をしたりします。また、苛立ちを感じながらも、対策を助言します。そうした男の対応を見た途端、女は「この人私のことを何も思ってくれていない」と激怒するのです。男は、長々としゃべる話に付き合い、真剣にアドバイスまでしてやったのに、なぜ怒られるのだと言わんばかりに反論します。こうした繰り返し、悲劇的な状況を引き起こすのです。喧嘩のきっかけは、子育てが大変だとか、あなたがいつも私の言うことを聞いてくれないとか、近所の がこんな意地悪をするとか、そのようなことがほとんどなのですが、これが何回も続くと、別れ話にまで発展しかねないのだから怖いものです。そもそも男と女の脳には違いがあるのです。その違いを理解すれば、互いに無駄なエネルギーを使っていることに気づく

## 受講生募集！

場所：梅田相談室  
料金：4,000円(税込)

### 平成27年10月～平成28年4月 アサーション・トレーニング 理論編

4月 17日（日） 13:00～14:30

⑪感情の表現について

4月 24日（日） 13:00～14:30

⑫怒りとアサーション



### アサーション・トレーニング 実践編6

4月 30日（土） 13:00～14:30

○内容 アサーティブなコミュニケーション

### マインドフルネス スキル トレーニング

4月 16日（土） 10:30～12:00

## ゆとり世代よ、はばたけ！

ゆとり教育は、総合学習の理念が基礎になっています。それは子どもの個性や創造性を育てることに主眼が置かれています。教育には二つの目的があります。一つは既成の学問をいかに習得し次の世代につなげていくかというものと、もう一つは子どもの創造性を生かし、これまでとは異なった新しい領域をいかに広げ発展させていくかというものです。前者は日本の教育では得意領域でした。しかし、現在の世界の動向を見ても、既成の学問内容を記憶してその成果を出すことより、問題解決力と創造性が必要とされています。大学受験も、そうした能力が評価できる試験となってきました。ゆとり教育はそのための教育改革であったのです。そしてそれを作ってきたのが、私達でした。私が30代の頃は、国立の教育研究校で、ゆとり教育のもとになる学習展開を開拓していた時代です。その教えを伝授してくれた先生は、奈良女子大付属小学校から赴任した、長岡文雄先生と兵庫教育大教授の西光時亨先生です。ゆとり教育が成功していれば、人間としての個性を發揮して、創造性豊かな個性あふれる生き生きとした人間形成ができたはずで、これはこれからも重要な教育課題です。

## 阪神カウンセリング・ラボ 梅田相談室

〒530-0014

大阪市北区鶴野町4-11 朝日プラザ梅田9階910

Tel/Fax 06-6147-2533

E-mail [hanshin-c.l@star.ocn.ne.jp](mailto:hanshin-c.l@star.ocn.ne.jp)

<http://www.hanshin-cl.com/>

<http://www.wakaru-ha-kawaru.com/>

